



令和元年度

学校だより

令和元年11月28日

横浜市立高田小学校

12月号

「人権週間に向けて」

学校長 金子 一雄

12月4日から11日は、人権週間となります。子どもたちに、先日の集会で「思いやりをもって」「相手の立場になって行動しよう」と話をしました。そのような行動を起こすための前提として、一人ひとりが「正しいことが何であるか」という感性をもっていることが必要だと思います。現在の社会では、とかく「見かけ」や「便利なこと」、「楽なこと」が、「本当に大切なこと」がより優先されてしまう風潮があります。学校や社会の中で、「何が大切なことなのか」という価値観をしっかりと持たせ、それに沿って判断、行動する、ことの重要性を学ばせたいと思います。今日は、何が本当に正しいことか、何を大切にすべきなのか、について教えてくださった、私が5年生の時の、家庭科専科だったN先生についての思い出を、お話ししたいと思います。

N先生は、女性の年のころは50才前後の先生でした。とても厳しい先生で、家庭科は、みんないつもより少し緊張して授業を受けていました。1学期の中頃、「裁縫箱の袋」を縫うことになりました。私たち5年生は、家庭科がはじめてで、みんな新品の裁縫箱を購入したばかりでした。それを入れる袋を縫うことになったのです。

自分で生地を裁断し、それを縫い合わせて、外側には、各自の好みでフェルトの生地で「くま」「うさぎ」「花」など飾りをつけてつくることになりました。簡単そうに思えますが、初めて針と糸をもつ、子どもにとっては、かなり難しいことです。授業で5～6時間、いやそれより多かったかもしれません、何時間も作業をしましたが、ほとんどの子は完成しませんでした。先生が「来週で最後にします。できてない人は家でやってきてください。宿題です。」と言われました。

1週間は、あっという間です。私は、提出する3日前から、袋の完成を目指して家で続きの作業を始めました。やってみるとやはり時間がかかります。私が不器用だったこともあるかもしれませんが、2～3時間やっても完成しませんでした。次の日も同じくらい家で作業しましたが、まだ完成しません。提出日の前日夜おそくまで、かかってようやく完成することができました。

次の日、家庭科の授業がはじまりました。出来上がった作品を、各自が持ち、先生の前に1列にならんで、点数をつけてもらいました。「5点」「4点」「6点」とかすかに聞こえてきます。どうも10点満点でつけられているのがわかりました。N先生は厳しめです。みんな、少し不安げな気持ちで、自分の番を待っていました。

待つ間、前に並んでいる子と作品を見せ合いました。その子の作品をみて、私は驚きました。その子の作品が、とてもきれいに仕上がっていたからです。私の袋は、縫い目が曲がっていたり、縫い方が雑だったり、比べ物になりません。よく見まわしてみると、その子ばかりでなく、並んでいる多くの子の作品は、とてもきれいに仕上がっていました。「もしかしたら私は最低点かもしれない」とてもいやな気持ちにもなりました。

私の番になりました。先生は、私の作品を受け取りじっとみていました。袋を裏返しにして縫い目を確認するように見ていきました。また表にして、今度は、「くま」の飾りをじっと見ていました。そして、立ち上がり私の袋を持った左腕を高く上げて、みんなに見せるようにして少し大きめの声で言いました。「10点です」

教室中が一瞬しずかになりました。私は、苦労して作ったことが評価されとてもうれしく思いましたが、でも、なぜよい点を取れたか最初は不思議でした。評価が終わり、自分の机にもどると、友人たちが、私の作った袋を見に来ました。みんなじっと見ては、「すごいね」「よかったね」と言ってくれました。級友たちには、なぜよい評価だったか分かったようでした。私にもだんだんわかってきました。実は、級友の多くの作品は、保護者の方が手伝っていたのです。N先生は、言葉には出しませんが、それを見抜いて、見た目がきれいな作品でも低い点をつけていたのです。私のあまりきれいではない作品は、明らかに自分でやったとわかり、そのことにより評価を与えてくれたのです。私は、そのことをたいへんうれしく感じました。きれいに仕上がっていた作品より、自分自身で作った完成度が低い作品に、大きな価値を感じ、評価してくれたことがうれしかったのです。級友たちもそれがわかって、だれも私の作品の評価について「おかしい」とか「変だ」とは言いませんでした。

学年末に家庭科で、また「ソプラノ笛の袋」を作ることになりました。作業が終わりに近づきやはり宿題になり、提出日に前と同じように、1列に並んで評価を受けました。級友たちは、あまり上手でない袋をN先生に堂々と差し出し、それを見ては、N先生は、先生にはめずらしく、「10点」「9点」と、高評価を連発していたことを今でもはっきり覚えています。

私たちのクラスのみんなは、担任の先生のことは、もちろん、N先生のこと、50年近くたつ今でも、同窓会では必ず話題に出し、思い出を語り合っています。